



▲堂内にはすさまじい音が鳴り響く

▶お札を各家庭に持ち帰ります。

「ナンジヨウ」は、「乱声」「難除」ともいわれ、五穀豊穡を願い、また家庭から難を除くものとして江戸時代以前から行われてきた地域の年中行事。現在でも行われている例は珍しく、榛原では、玉立のほか長峯、赤瀬などのごく限られた地域で行われています。

この玉立地区では正月3日に青龍寺で行われ、特徴的なのは音や勢いが凄まじいこと。御堂の中には脚のついた長い白木が置かれ、地元の方は各家庭から長さ1m程度の藤の枝を持ち寄ります。

行事は僧の読経の中で行われ、僧が「ナンジヨウ」と声を上げると役員はホラ貝とともに太鼓を打ち鳴らし、それを合図にみんな一斉に藤を白木に叩きつけます。打ちつけられた藤は当然ポロポロになり、堂内はものすごい埃が舞い上がります。そして、そのポロポロになった藤を、当屋が掲げていた牛玉枝に巻きつけ、それを家や農地に掲げるのです。

今日の Pick Up

みんなで創り上げた 素敵な成人式!

- ①式典 市長・来賓よりお祝いのことば
- ②新成人による国歌およびエンディング曲(未来へ)の生演奏
- ③新成人による誓いのことば
- ④芸人コンビ「かまいたち」による漫オライヴ
- ⑤記念行事を楽しむ新成人のみなさん
- ⑥実行委員会制作によるパンフレット
- ⑦実行委員会制作によるウェルカムボード
- ⑧新成人が書いた「夢」。記念行事では「夢」をテーマにトークされました

